

評価項目		配置パターン	A案 (7.2m x 15mスパン)	B案 (14mスパン)	原案 (13mスパン)		
建築概要	階構成		6階建て(6階MRのみ)	5階建て(5階MRのみ)	5階建て(5階MRのみ)		
	柱・杭の箇所数		30本	18本	20本		
	延床面積		約10,000㎡	約9,800㎡	約10,000㎡		
	基準階面積 ※執務室面積(倉庫・会議室含む) の全体レンタル比(5,700㎡)		約2,000㎡ 約54~57%(約5,400~5,700㎡)	約2,450㎡ 約56~59%(約5,400~5,800㎡)	約2,500㎡ 約57~60%(約5,600~5,900㎡)		
配置	配置計画						
		土地利用	① 敷地形状との整合性	東側に車寄せが確保しづらい	×	敷地の東側に車寄せが可能	○
			② 工事ヤードの確保	東側からの工事車両動線となり、工事ヤードが十分確保できない	×	東側からの工事車両動線となり、工事ヤードの確保ができる	○
		周辺環境	③ 近隣住環境への配慮	圧迫感あり、日影影響あり	×	圧迫感なし。日影良好。	○
		④ 都市構成との整合性	一般的な構成	○	市域を見渡す・見守るイメージ	○	

評価項目		配置パターン		A案 (7.2m x 15mスパン)	B案 (14mスパン)	原案 (13mスパン)	
計画パターン	1階	<p>来庁者・職員兼用コア</p>	<p>来庁者・職員兼用コア</p>	<p>来庁者専用コア</p> <p>職員専用コア</p>			
	基準階						
	柱位置						
景観性	市の象徴としての存在	一般的な棟構成	○	北側に正面性を持たせたファサード	○	全方位に正面性を持たせたファサード	◎
環境性	風環境の配慮	敷地内への風の影響あり(風環境シミュレーションによる)	△	伊吹おろしを考慮した風に配慮(風環境シミュレーションによる)	◎	伊吹おろしを考慮した風に配慮(風環境シミュレーションによる)	◎
近所システム	執務部・市民の利便性	見通し悪い(中廊下)、中廊下で閉鎖的	×	一望できる(回遊型廊下+吹抜け)、片廊下で開放感あり	○	一望できる(回遊型廊下+吹抜け)、片廊下で開放感あり	○
面積効率	コンパクト化	レントラブル比 1階:約48% 基準階:約67%	△	レントラブル比 1階:約58% 基準階:約74%	◎	レントラブル比 1階:約58% 基準階:約73%	○
庁舎の機能性・コスト	① 環境負荷の低減	西側はコアで負荷低減	○	西側の負荷対策が必要	△	西側の負荷対策が必要	△
	② 来庁者・職員動線	長い	×	短い	○	短い	○
	③ 執務スペースとバックヤードのつながり	バックヤードを分散配置	△	平行に配置し職員動線や職員コミュニケーションが良	◎	バックヤードを集約配置	○
	④ 躯体コストの経済性	柱・杭・免震装置で増(各30本)	×	柱・杭・免震装置がやや減(各18本)	◎	外壁率・杭・免震装置で標準(各20本)	○